

会議結果の公表

附属機関等の名称	令和5年度 新沖縄県史編集委員会
日 時	令和6年3月13日（水） 10:00～12:00
場 所	沖縄県公文書館 講堂
参加委員名	赤嶺政信 久万田晋 近藤健一郎 里井洋一 田名真之 豊見山和行 鳥山淳 波照間永吉 比嘉悦子 前城淳子 宮城晴美 吉浜忍（五十音順）
議題	1 報告及び計画 (1) 令和4年度新沖縄県史編集委員会報告 (2) 令和4年度刊行物及び令和元年度刊行物 (3) 令和5年度各専門部会・編集協力会議報告 ①刊行計画検討専門部会 ②各論編『言語』専門部会 ③各論編『芸能』専門部会 ④ビジュアル版『沖縄戦』編集協力会議 (4) 県史料有償頒布 (5) 近代沖縄史料デジタル化事業 (6) ベッテルハイム日誌日本語翻訳版刊行 (7) 史料調査 (8) 広報・教育普及活動 2 審議 (1) 第3次刊行計画について (2) 第4次刊行計画策定スケジュールについて (3) 第4次刊行計画で取り扱う題号および冊数について（中間報告）
議事の概要	審議(1)では、第3次刊行計画の遅延について予算の状況を説明し、以下の質疑および意見が提出された。 ・なぜこのように予算がとりにくくなっているのか。県から何らかの説明はないのか。 →史料編集事業費に対する予算措置には厳しい状況が続いている。 ・予算の関係でやむを得ないというところもあるが、その間事務局としてどういう研究をするのか、歴史を編集するための紀要やデータ蓄積などの業務を充実させ、外に見せていく必要がある。 審議(2)(3)では、第4次刊行計画策定までのスケジュールおよび第4次計画で取り扱う冊をどうするかについて、今年度の刊行計画部会での議論をまとめ、中間報告として提示した。同時に、計画立案における、事務局の体制や、刊行物の予算などの懸念事項を説明した。これに対し以下の質疑および意見が提出された。 ・教育編は、刊行の意義は十分ある。市町村史で参照できるような全県的な動向を参照するものは必要。また、刊行計画部会で不足が指摘された基本資料については、近年史料の整理や刊行が進み、改善されてきている。 ・移民編については、執筆者を探すのが難しいという意見、近く刊行予定の「言語」や「芸能」でも移民編と重なる部分が必ずあるという意見、世界のウチナーンチュのネットワークがあり、扱う材料は豊富にあるだろうという意見が出された。 ・現在の第3次刊行計画に入り、遅延が見られる。今後も継続して安定的に計画どおり実施できるような事務局体制及び予算編成が必要との要望が出た。 ・次年度は刊行計画において第4次刊行計画の文案の作成、第4次刊行計画で発刊する冊の選定、10年間の発刊予定表の作成を行ない、編集委員会で提示する。
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	
所管課等	沖縄県教育庁文化財課
問い合わせ先	史料編集班 電話：098-888-3939
備考	